

## 家畜伝染病の正しい知識の普及に向けた体験イベントの取組

中丹家畜保健衛生所  
○ 渡部展彰 岩間小松

【はじめに】府の基幹家保としての機能強化のため、平成18年に移転した当所では、高病原性鳥インフルエンザの府内発生時の風評被害を踏まえ、家畜伝染病に対する正しい知識の普及を目的に、体験イベントを現在まで継続実施。【方法】旧家保での小学校の体験授業のノウハウを活かし、平成20年度から一般府民を対象にした体験イベントを実施。内容は①家保の業務紹介、②獣医師の仕事体験、③食育の取組みで構成。今年度の新たな試みとして、従来の報道機関へのプレス前に、広域振興局の広報誌「明日の中丹」に掲載するとともに、小学生親子が体験学習等に専念できるよう、保育ルームを設置。【結果】9回目となる今年度は21組50名の小学生親子が参加。プレスオープンから1.5日で定員を確保。ラジオ、テレビ、新聞による報道が5社。アンケート調査では、保護者からこれまであまり知られていなかった家保業務に対する理解が得られ、全員がイベントの継続を支持。児童たちからは鶏の心音聴診や顕微鏡観察、卵の中の胎児観察及びバター作り等初めて体験することに興味をもち、将来「僕もここで働く人になりたい！」との回答も得た。【考察】今後も「府民に開かれた職場」として、地域住民からの理解のもと、体験イベントを継続し、風評被害対策と正しい知識の普及に取り組む。